

(有)タナセン 代表取締役

## 上田幹男さん

「地元」に店が無くなると活気がなくなる。地域が必要とする生活の拠点として続けていかなくてはならない」と話すのは、南丹市美山町鶴ヶ岡地区の「(有)タナセン」5代目の代表取締役を務める上田幹男さん(67)。

同地区は同町北に位置し、福井県小浜市に隣接している。かつて西の鯖(さば)街道と呼ばれた街道が中央に走る農業が盛んな中山間地。高齢化が進むこの地域で、JAの廃止店舗を改装し、地域の貴重な買い物の場を守るために1999年に法人を設立した。

同社は、購買部、農事部、福祉部を設けて事業を展開している。購買部は、2年前、地元の方に書いてもらった看板に掛け替え、「ムラの駅たなせん」にリニューアルし、地域の農産物や食料品、日用雑貨を販売している。農事部は、地域の農業を維持していくため

## 明日へ向かって駆ける

農業法人の経営者は語る

に地域と連携し、農作業受託を行っている。福祉部は、地域内の高齢者向けの送迎や除雪などのサービスを行う。「地域に生活拠点が無くなると途端に人通りが少なくなる。そのため地区内に生活拠点は不可欠。三つの事業を『3本の矢』として、地域に密着した取り組みを続ける」と上田さんは言う。

しかし、同社が農作業全てをやってしまったら、「タナセンに任せているから」と離農を促すような状況に陥りかねない。特に、農事部の取り組みは、「同社が農地を預かりすべての作業を行うのではなく、各集落にある営農組合に任せるところは任せ、農家が出来ないところをフォローすることが大切だ」と地域の営農組合と連携して農業に取り組んでいる。集落ごとに作る作物を決めてもらい、同社で農作業をフォローする。現在は、13畝の農地でソバを栽培、また、地元の業者の要望を受け3畝で白大豆を栽培してもらい、同社が機械で収穫作業

や乾燥作業を行っている。

上田さんは「今後、高齢化が進み人が減っていくことで、集落コミュニティがつぶれることを最も心配している。人がいない所の農地をどう守って行かかが問題だ。近年、地域に入ってきた企業が、従業員の宿舎を建て、農地も所有し地域の活動にも参加してもらっている。I・Uターンの人にも定住してもらえるような環境づくりを考えていきたい」と話す。

また「タナセンの店舗の若手スタッフが自分の子供を連れて仕事に来て、保育スペースで子供の世話をしながらお客様を接待できることが好評だ。地域の重要な生活拠点として、これからも地元の方にご利用いただけるよう励みたい」と上田さんは、時代の変化に合わせた柔軟な姿勢を示した。

■法人所在地 南丹市美山町鶴ヶ岡新  
 積迎堂前1。(電)0771(76)0745。



▶地域の生活を支える上田さん①、農事部長の柿迫さん②と店舗スタッフ③

## 地域の生活拠点守る

■法人概要 1999年10月設立。役員5人、パートタイマー7人。農作業受託13畝(ソバ13畝、白大豆8畝ほか)。農業機械 トラクター・汎用(はんよ)コンバイン各2台、大豆選別機1台、ソバ乾燥機1台、フォークリフト1台ほか。店舗「ムラの駅たなせん」営業時間 午前8時～午後6時(1・2月は午後5時まで) 毎週火曜定休日。介護予防拠点施設「よっこらしょ」併設。